

一代交配 小型ニガウリ（ゴーヤ）

みにがうり

ニガウリは、「つるれいし」と呼ばれますが、沖縄での呼び方「ゴーヤ」が一般的になっています。普通、20cm～30cmに生長しますが、「みにがうり」は果長が5cm～6cm、果重が30g～40gと、手の平に乗る超ミニサイズです。小型の紡錘形で、イボが隙間なく詰まり、適度な弾力があります。極端な苦みは出ず、小さなサイズを生かした肉詰め料理等に適します。緑のカーテン、家庭菜園、直売所向けの栽培に最適です。

【栽培のポイント】

- ニガウリは、南アジアの熱帯地方が原産地のため、高温多湿の環境に強く、耐病性があり、作りやすい夏の野菜です。下の作型表が目安ですが、定植を6月以降にして収穫期を後ろにずらすことも可能です。
- ニガウリの種子は遺伝的に発芽が遅れることがありますが、「みにがうり」は発芽しやすく、その後の生育や果実の着果も安定しています。株間は50cm～100cm。プランターやコンテナでも作れます。
- 元肥は10㎡当たり、成分量で、窒素150g、リン酸200g、カリ150g前後を施します。緩効性の肥料をお勧めします。定植の前にマルチを張り、地温を上げます。
- 苗の圃場への定植（植え付け）は、晩霜の降りない、地温が15℃以上になる時期に行います。日本の中間地域での定植は5月中下旬かそれ以降になります。
- 定植後は、親づるをそのまま残すか、本葉が5～6枚の時に親づるを摘心（切除）し、その後に発生する小づる4～5本を伸ばします。
- キュウリ用ネットによる立体栽培では、支柱を壁に斜めに立ててネットを張り、つるを誘引します。
- 生育が進むと茎葉に光線が充分当たらなくなりますので、孫づるを適度に摘み取ります。
- 訪花昆虫がいる場合は自然に着果しますが、そうでない場合は午前中の早い時間に人工交配をします。
- 露地栽培では、定植して苗が活着した後は、雨水だけで栽培できます。日照りが続いた時は、朝方に灌水しますが、過剰な水やりは根を傷めるので注意しましょう。
- 雌花の開花～交配から1～2週間前後で収穫時期を迎えます。果皮色が黄色っぽくなる前に収穫して下さい。取り遅れをしないよう、こまめにチェックすることが大切です。
- 追肥は、最初の果実が取れ始めた頃から施します。液肥で与えるのもよいでしょう。



	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ニガウリ の作型	冷涼地						
	中間値						
	西南暖地						

■ は種期 ■ 定植期 ■ 収穫期